

## 徳島県立二十一世紀館協議会 会議録

1 日 時 令和4年12月16日(金) 10:00 ~ 11:00

2 場 所 二十一世紀館会議室

3 出席者

【委 員】 10名中8名出席

佐野会長、西川副会長、蔭山委員、加藤委員、  
清重委員、田所委員、千葉委員、横畠委員

※欠席委員 北内委員、林委員

【二十一世紀館】

館長、副館長、館員4名

4 会議次第

1 開 会

2 二十一世紀館長挨拶

3 議 事

(1) 令和3年度事業実績について

(2) 令和4年度事業概要について

(3) その他

5 閉 会

【議事（１） 令和３年度事業実績について】

【議事（２） 令和４年度事業概要について】

事務局

（資料に基づき説明）

委員

今回の年報は令和２年度・令和３年度合併号となっているが、サーバーへのアクセス数の集計については、令和２年分と令和３年分を合わせたものなのか。

情報セキュリティの面で、ホームページの存在を世界中のインターネットから探知検索することは可能なのか。

あわせて、海外からのホームページへのアクセスについて、どこの国からどの程度のアクセスがあったかを判別できるようになればありがたい。

事務局

この表のアクセス数について、令和２年度はロボット検索は含まれていない。当館在中であるＳＥの方にも確認しており、不正アクセス等については排除している。外国からのアクセスの解析が可能かどうかについては、確認させていただく。

委員

令和３年度事業一覧の中で、開催月日が入っていないものがあるが、どういうことか。

事務局

「ファミスポカーニバル」については開催日を記載していないが、１１月３日（水・祝）に「文化の森秋祭り」と併せて開催したものである。

委員

文化の森通信を毎回楽しみに見ており、コロナ渦の中ではあるが、年間を通じて年代に合わせた幅広い企画をしてもらえるよう、今後も期待している。

特に団塊の世代にとっては、園に来る楽しみがどんどん広がっていけば良いと思う。

委員

県西部においては、文化の森に対する認知度が低い。認知度をもっと高められるよう、親子で楽しめる企画や、老若男女を通じて「参加型イベント」をもっと増やしていけば良いと考える。県内にこれだけの文化施設が一同に整った環境はなく、もっと盛り上げることができればと思う。

委員

コロナ渦の中で、注意しながらこれだけのイベント等々をやっていただいて感謝している。現在は、単独で何かをやるというのは減少しており、組織等が共同でイベント等を行う形が増えてきている。文化の森にある様々な施設とメディアや大学等とがコラボレーションした企画、外との繋がりを意識して実施すれば、文化の森の価値がもっと上がると思う。

例えば、現在図書館で展示している「日本絵本賞」では、当方で集めた絵本のストーリーを県の協力により実際に絵本を作るというイベントがあり、それ

を県立図書館の方にも置いてもらっている。こういう機会にもっとコラボレーションして打ち出せれば良いと思うが、そういう時の窓口はどこになるのか。

事務局

図書館の展示・イベントであれば、直接図書館の方と話をさせていただくか、もう少し大きなイメージで企画されている場合は21世紀館の方に声がけいただき、当館がコーディネート役として各館と繋げていただく形になる。

具体的なお話をいただいた時点で考えさせていただく。

委員

当方は来年開局90周年となり、いろんなイベントを企画中であり、行政、大学、その他の機関とコラボレーションして事業を展開させていきたいと考えており、またご協力をお願いしたい。

事務局

ありがとうございます。

委員

総合教育センターでは、子どもから高齢者向けの様々なイベントを行ったり、総合大学校本部においても県民向けの「新未来とくしま」講座も実施している。多くの方に参加していただきたいが、広報が難しく、また地の利（板野町）も悪く公共交通の便も不便なため、一昨年から阿南市と美馬市にサテライト会場を設けて地元の方々に参加していただいている。手間はかかるが非常に好評である。

また、土曜日にはアニメ等の映画会も開催しているが、コロナの影響もあり、参加者が増えない状況で、同じような悩みを抱えている。これからは、いろいろな情報や意見交換をさせていただきながら、良い部分を取り入れていければと感じている。

音楽イベントにおいても、他会場をお借りするなど、他組織との繋がりを活発に行い、工夫を凝らしながら集客を増やしていければと考えている。

委員

以前は、多くの方に会場へ足を運んでいただき、鑑賞や参加をしていただくという形であったが、今後はデジタル化により、離れた場所からでも楽しんでいただくことも必要かと思う。例えばバーチャルリアリティを駆使し、イベントに参加できなくても後から体験できるなど、可能な範囲でやってほしい。

事務局

コロナ渦の影響の下、この3年間は、会場での対面式及びズーム参加のハイブリッド方式で会議を開催したり、或いは、「とくしまデジタルアーカイブ」の数をどんどん増やしていることについては、ご自宅で観ていただくということ意識したものである。

博物館では、HP上で「自宅で博物館を楽しもう！」と掲げ、外出しなくても可能なコンテンツを取り集めて鑑賞していただいているなど、文化の森としてもコロナ渦を経て、デジタル化に対する意識が大きく変わってきた。

今後、アーカイブについても拡張し、例えば図書館の電子書籍もどんどん数

を増やしている。学芸員や司書をはじめ、お客さんにお越しいただきたいという気持ちが強くあるが、一方で、まずご自宅で見えていただき、なお興味があれば来ていただくという手法も大切だと思う。ここ3年間で考え方の幅が本当に広がったという実感がある。

(議事(1)、(2)については終了。)

**【議事(3) その他】**

委員

特になし。

会長

それでは、ご意見も出尽くしたようなので、これをもって本日の議題については終わらせていただきたい。事務局の方には、議事の内容を活かしていただきたい。

以上